

鉄道車両を起因物とする交通事故（その他）の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	2	0 ～ 1	ミニバイクでピザを宅配中、警報機も遮断機も付いていない第4種踏切りで臨時列車にはねられた。	80209	10 ～ 29
1999	3	0 ～ 1	地下鉄駅でホームへ行くため、駅階段を下り目的地の駅出口に便の良い電車乗り口に向かうためホーム上を歩いているときに線路に落ち、そこへ電車が入ってきて轢死した。	90103	100 ～ 299
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこト口2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	1～ 9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこト口2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	1～ 9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこト口2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	1～ 9
1999	2	12 ～	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこト口2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時	30309	1～

		13	回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。		9
1999	2	12 ～ 13	貨物線の列車検知用インピーダンスボンド導線1組を取り替えるため、片ねこト口2台に材料・工具等をのせて、6名が軌道内を歩き始めたところへ、臨時回送列車が接近してきたため、待避する間もなく5名が電気機関車に激突され、3名が即死、2名が収容先の病院で死亡した。	30309	1～ 9
2000	9	17 ～ 18	集金のため原動機付自転車にて走行中、警報機、遮断機の無い踏切で、電車にはねられた。	80205	10 ～ 29
2000	6	14 ～ 15	設計打合に出席するため、会社近くの駅から電車、ホームに行ったときに線路上に転落し、電車にひかれた。	80209	50 ～ 99
2000	12	13 ～ 14	電車が終着駅に入線したところブレーキが故障していて所定の位置に停車できずに約1km走行し、反対側から走行してきた車両に正面衝突した。(乗務員1名死亡、乗務員2名と乗客24名が負傷)	40101	100 ～ 299
2000	12	11 ～ 12	安全衛生委員会に出席する同僚職員を迎えに行くため車で走行中、警報機だけの踏切に差し掛かったところでレールバスと衝突した。	160101	10 ～ 29
2000	2	15 ～ 16	夕刊の配達途中、警報機付踏み切りで普通電車で跳ねられた。	80205	10 ～ 29
2001	2	18 ～ 19	駅構内において、下り線のポイント(転てつ器)の不転換が発生し輸送指令から調査を指示された見張員1名とパート作業員2名が上り線内を通りポイントに向かう途中、見張員と作業員1名が列車に跳ねられた。	40101	100 ～ 299
2001	2	18 ～ 19	駅構内において、下り線のポイント(転てつ器)の不転換が発生し輸送指令から調査を指示された見張員1名とパート作業員2名が上り線内を通りポイントに向かう途中、見張員と作業員1名が列車に跳ねられた。	170201	30 ～ 49

2001	4	18 ～ 19	積みつけ確認係として駅構内でコンテナと列車の確認作業を行っていたときに、走行してきた貨物列車にひかれた。	40301	100 ～ 299
2001	10	8 ～ 9	線路近くの民家の測量を線路敷地内に立ち入って行って、測量地点を移動していたときに接近する電車に気付くのが遅れて電車に激突された。	170209	1～ 9
2002	1	11 ～ 12	枕木交換工事現場で列車の待避中、工事責任者が待避位置を離れ列車と接触した。	30199	100 ～ 299
2002	1	11 ～ 12	河床の掘削工事において、4tトラックで土砂を運搬中に土砂が踏切の路線上に落ちたので、路線上の土砂を取り除くため遮断機が下りている踏切内に入り、特急列車にはねられた。	30107	10 ～ 29
2002	10	17 ～ 18	仮設駅の建設工事において、仮設ホーム下部のジャッキベースと敷板を固定する作業を行っていて、高さ約1mのホーム上に乗り上がろうとしていたときに特急電車と接触した。	30209	1～ 9
2002	12	11 ～ 12	JR線の踏切付近で矢板打込み作業の見張をしていて、普通列車に接触して水路内に転落した。	30107	30 ～ 49
2003	3	9 ～ 10	電車の軌道上で電気系統の点検中、上り電車を避けたときに下り電車と接触し電車に引きずられた。	40101	30 ～ 49
2003	6	9 ～ 10	当日の夜間作業の打ち合わせを終えて駅に向かっているときに、軌道内で電車に背後から激突された。	40101	30 ～ 49
2003	6	4 ～ 5	鉄道線路で、保線車両を使用したバラストのつき固め作業中に上り線特急にひかれた。	30199	10 ～ 29

2004	12	9 ～ 10	ライトバンでデイサービスの利用者の送迎中、踏切（遮断機、警報機なし）内で、線路上を走って来た列車が衝突した。	130201	30 ～ 49
2004	3	18 ～ 19	線路内に落したお金を拾って欲しいとの依頼を受けた被災者が、駅ホームから線路内に降りて、お金を探していたところ、時速100kmほどで駅を通過した電車にひかれた。	40101	30 ～ 49
2004	12	8 ～ 9	踏切付近において、道床整備工事と呼ばれる線路の下に敷き詰めている石材を締め固める作業を行っていたところ、通過する列車にはねられ死亡した。	30104	10 ～ 29
2005	11	15 ～ 16	線路のバラスト交換工事のため、ドラグ・ショベルで線路の上を自走して、鉄橋の上を移動する作業を行っていたところ、走行してきた普通列車（2両編成）に追突された。	30104	30 ～ 49
2005	12	19 ～ 20	列車が転覆し、乗客として乗車していた被災者が巻き込まれた。	11403	300 ～
2005	6	16 ～ 17	用務先より事業場に戻る途中の鉄道駅のホームから転落し、進入してきた列車と接触した。	170202	10 ～ 29
2005	4	9 ～ 10	乗車していた列車が脱線した。	80209	30 ～ 49
2005	3	16 ～ 17	社用先から帰社途中、駅付近の踏切で電車にはねられた。	90103	300 ～ 499
2005	4	9 ～ 10	出勤のために乗車した電車の事故に巻き込まれた。	120102	50 ～ 99

2005	4	9 ～ 10	電車に乗務中、車両が脱線した。	40101	～ 299	100
2005	4	9 ～ 10	乗車した電車が脱線した。	170101	～	300
2005	4	9 ～ 10	電車に乗車中に脱線転覆事故に巻き込まれた。	10803	～ 299	100
2005	3	20 ～ 21	鉄道終点で、列車が停車せず、列車止めを乗り越え、駅舎に激突した。	40101	～ 299	100
2005	3	12 ～ 13	レール削正作業において、作業開始前に写真撮影をしていたところ、走行してきた列車に接触し、はね飛ばされた。	30104	～ 49	30
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	～ 49	30
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	～ 49	30
2006	1	13 ～ 14	保線作業員7名が、線路内で、タイタンパー2台を用いたバラスト突き固め作業中に、列車に作業員3名がはねられた。本来配置すべき位置と反対側に見張員を配置していたため、接近してくる列車から退避できず、被災した。	40101	～ 49	30
2006	6	4 ～ 5	軌道敷地内において、軌道に接した箇所で、新たなレールの溶接工事の仕上げ作業を行っていた被災者が、軌道を走行してきた貨物列車にはねられた。	30104	～ 29	10

2006	7	2 ～ 3	分岐機の点検と枕木の交換工事において、ホーム横上り本線上で携帯電話にて事前打合せをしていたところ、急行電車に激突された。	30104	100 ～ 299
2006	8	6 ～ 7	被災者はバイクに乗車し、新聞配達を行っていた際に、踏み切り内で列車に接触した。	80205	1～ 9
2006	10	5 ～ 6	駅構内において、駅構内管理業務中に、下り線（2番線）ホームの線路上にいた被災者が、下り貨物列車にはねられた。	40101	30 ～ 49
2006	12	14 ～ 15	被災者2名が、駅下りホーム下、線路上で、レールのつなぎ目部分である伸縮継目の写真撮影を行っていたところ、通常ダイヤの間に運行していた試運転の車両に轢かれた。	40101	10 ～ 29
2006	12	14 ～ 15	被災者2名が、駅下りホーム下、線路上で、レールのつなぎ目部分である伸縮継目の写真撮影を行っていたところ、通常ダイヤの間に運行していた試運転の車両に轢かれた。	40101	10 ～ 29
2006	12	16 ～ 17	市内でピザ配達のためバイクを運転中の被災者が、踏切を横断中、普通電車に衝突した。	80209	1～ 9
2007	7	16 ～ 17	貨車の入れ換えのため、貨車の二両目前方付近に乗車していた被災者がレール上に倒れて死亡しているのが発見された。被災者は機関車と貨車（14両）の連結及びポイント（分岐器）切り替えの連絡作業に従事しており、運転手に減速の合図（無線）をした後、ポイント付近で貨車から転落し、貨車の台車のフレームに激突した。	40101	10 ～ 29
2007	10	14 ～ 15	地下駅構内で、3人一組で分岐路（ポイント）の点検を行っていた列車監視役の保線作業者が、近づいてきた列車にはねられた。現場には列車接近警報装置が設置されており、警報音が鳴ったため、3人は一旦避難したが、被災者は再び線路内に入った。	40101	1～ 9

2007	3	13 ～ 14	鉄道駅ホームを西側から東側へ通行の際、線路に転落し、入車してきた電車にはねられた。	120109	300 ～ 499
2009	11	8 ～ 9	住宅屋根補修工事現場で使用する資材を購入するため、被災者が社有車で市内のホームセンターに向かう途中、警報器及び遮断機がない踏切を通過しようとしたところ普通列車と衝突した。なお、助手席には当該住宅の修理依頼主が乗車していた。	30209	1～ 9
2009	7	2 ～ 3	鉄道下り線のレール交換作業において、被災者は敷石を運搬するための籠を持ちながら、上り線路を横断していたところ、貨物列車にひかれた。なお、列車運転士は被災者の姿を約50m手前で発見し、警笛を鳴らして急ブレーキを掛けたが間に合わなかった。また、本作業時には監視人を配置して、列車が通過する際には無線と声で知らせていた。	30104	1～ 9
2009	2	1 ～ 2	駅から駅間でPCマクラギの積み込み作業を行っていたところ、電車接近の合図があったため、作業を一時中断して待避していたが、電車が通過する際、触車して被災した。	30104	10 ～ 29
2009	3	7 ～ 8	被災者はミニバイクにて朝刊配達中、踏切内で転倒し、転倒現場の目撃者とともにミニバイクを踏切外に移動した後、踏切内に散乱した新聞を収集しようとして再度踏切内に進入し電車にはねられた。	80205	30 ～ 49
2010	3	13 ～ 14	駅構内の線路の間に倒れている被災者が発見され、7時間後に死亡が確認されたもの。現認者がいないため推定となるが、被災者が乗っていた貨物列車から駅ホームに向かうため降車しようとしていたところ、何らかの原因で転落若しくは自ら飛び降り、動いている最中の同列車に接触したと思われる。	40101	30 ～ 49
2011	1	11 ～ 12	被災者は、事業場の指示により書類発送のため、自宅を出て郵便局に向かう途中、踏切において、踏切遮断中にもかかわらず、踏切横断のため遮断機を手で下げ、踏切に進入したところ準特急電車で激突し死亡した。	170209	1～ 9
		12	飲料水試験検査（試料採取）の出張業務として、被災者は社用車を運転して県道を走行し、町内の踏切を通行しようと同踏切内に入ったところ、列車に		100

2011	2	13	衝突された。当時、踏切の遮断機は故障しており、その両側に配置された社員各1人が手動によるその開閉と通行車両の誘導にあたっていたが、本件はその誘導者の誘導ミスにより発生したものとされる。	170209	299
2011	12	7	6 新聞配達を終了した被災者が、踏切横に所在する新聞配達店にバイクを置き 7 に行くため同踏切内に入ったところ、下り列車に跳ねられたもの。なお、踏切の遮断機は降りていた。	80205	30 49
2012	4	20 21	出張先から直接自宅へ帰宅途中、誤ってプラットホームから線路内に転落。 その際、ホームに入線してきた列車に轢かれ死亡した。	170209	300 ～
2012	7	12 13	電車線（電線）の碍子交換等工事において、当該工事の下り線の中継列車見張り員として、当該工事箇所から東に約2km離れた駅構内のホームで業務を行っていた被災者は、昼の休憩後の作業開始前に立哨予定付近の下り線内で通過した特急列車に触車し死亡した。特急列車の運転手によると被災者を発見した際、被災者は後ろ向きで、警笛を鳴らした後は進行方向に走って行ったとのこと。	170201	30 49
2013	2	14 15	被災者は、ATC新設のため不要になったケーブルを撤去する工事において、踏切信号機に接続するケーブルを保護するコンクリートトラフの蓋を閉める作業に従事していたところ、通過電車が進入し、退避が遅れた被災者が当該電車に接触し、被災した。	30301	10 ～ 29
2013	4	9 10	被災者は、工事現場内で音響設備の設置作業中、駐車場に駐車していた車場で道具を取りに行き、駐車場から作業場所まで戻る途中、遮断機のない踏切（歩行者専用）を渡っていた際、進行していた電車と接触した。	30309	10 ～ 29
2017	12	18 19	輸送指令から雪害警戒体制が発動されたため、操車場構内において被災者ともう1名で融雪器の点火作業を行っていたところ、上りの旅客列車に激突され、死亡した。なお、列車との接触を防止するための監視人は、被災者本人であった。	40101	30 ～ 49
		14	原付バイクで南側から北側に横断中、普通電車にはねられ、即死した。踏切		1～

2017	9	～ 15	には警報機や遮断機がなかった。	90101	9
2017	2	～ 1	電路のがいしを交換する作業のため、工事指揮者1名、作業責任者1名、作業従事者1名、見張人1名が現場配置した。下り線の作業であったが、上り線の貨物列車の通過を待つため、作業者等は退避、見張者は当該貨物列車にライトで退避完了を合図していたところ、当該見張者が貨物列車先頭車両右側面に接触した。	170201	～ 29
2018	9	6 ～ 7	自宅から一般試験の為、会場に向かう際、駅のホームから転落し、侵入してきた列車にひかれた。	90103	50 ～ 99
2019	12	4 ～ 6	自宅から支店に出張するため、駅まで自家用車を使用し、駅北口付近の駐車場に車を止めたあと、踏切を渡り駅南口付近まで移動した。その後、再び踏切を駅南口から駅北口に向かって渡ろうとしたところ、走行中の特急列車にはねられ死亡したものの。	170209	～ 99
2020	1	8 ～ 10	線路に近接した水路工事において、残土置き場から作業場所に徒歩で戻っていた被災者が、線路の踏切ではない場所を横断していた時に、走行中の鉄道車両にはねられ死亡した。	30107	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html